

記録集『脊髄機能診断学』
— 原稿作成のためのガイドライン —

【原稿提出方法】 期日：2024年3月31日（日）

- ◆ 下記E-mailアドレスにお送りください。
（データが大きくメール添付ができない場合も下記までご相談ください）

sekizuidenki.office@gmail.com

【原稿作成方法】

- 本文は目安としてA4サイズ4枚（5000字）程度にまとめてください。
- “入力順序の記入方法”および“引用文献の記入方法”をご参照ください。
- 各順序の最後に一行改行をお入れください。
- 図表の説明は英語でお願いいたします。図表は基本的に白黒で掲載されます。
- 本文中に図版・写真原稿の位置を、Figure / Table番号にて指定してください。
- 原稿につきましては、編集委員による査読が行われます。
- 本雑誌掲載論文はproceedingとして扱います。

入力順序の記入方法

【タイトル（日本語）】例) 脊髄機能診断学

1行改行

【名前（日本語）】例) 脊髄 太郎¹⁾、機能診断 次郎²⁾

1行改行

【施設（日本語）】例) 脊髄大学¹⁾、機能診断病院²⁾

1行改行

【タイトル（英語）】例) Sekizui Kinoshindangaku

1行改行

【名前（英語）】例) Taro Sekizui¹⁾、Jiro Kinoshindan²⁾

1行改行

【施設（英語）】例) Sekizui University¹⁾、Kinoshindan Hospital²⁾

1行改行

【Key Words（英語）】

1行改行

【Abstract（英語）】

1行改行

【本文（日本語）】

1行改行

【文献（英語 or 日本語）】

引用文献の記入方法

- 文献は本文に用いられたものをあげ、文献番号を本文の右肩につける。
- 雑誌の場合は、著者氏名:論文表題、雑誌名、巻:最初頁—最終頁(通巻頁)、発行年(西暦)の順に書く。著者が3人を超える場合は3人で打ち切り、欧語の場合は「et al」、日本語の場合は「他」を付ける。
- 単行本の場合は、著者氏名:書名、巻数、版数、発行社、発行地、引用頁、発行年を記載する。
- 著者よりの引用は著者名のほか、編者名を記す。文献誌名の省略は原則としてIndex Medicusに従う。

例)

- 1 Orihashi K, Young YW, Chung G, et al : New applications two-dimensional transesophageal cardiography in cardiac surgery. J Cardiothoracic Anesth 5:33-39,1991
- 2 Ereth MH, Stensrud PE : Spinal cord imaging with transesophageal echocardiography. Anesth Analg 72:S67,1991
- 3 Godet G, Couture P, Ionanidis G, et al : Another application of two-dimensional transesophageal echocardiography : Spinal cord imaging. A preliminary report. J Cardiothoracic Vasc Anesth 8:14-18,1994
- 4 北原功雄、高橋 宏、谷口 真、他: 脊髄硬膜動静脈瘻術前術後の感覚障害の変化—特に疼痛について—。脊椎脊髄 15:1187-1195,2002